

# 吐山地域学校規模適正化検討協議会ニュース

平成27年7月

吐山地区委員（地域・PTA・学校関係者）／教育政策課

7月3日 第2回吐山地域学校規模適正化検討協議会が開催されました。

## 会議の概要

冒頭に吐山地域学校規模適正化検討協議会の設置要項について確認頂いたのち、会長に中島寿久氏が選任され、会長から副会長2名、事務局1名の指名が行われました。

本題は、①前回委員から質問のあった事項に対して市教委の見解・説明、②市教委から、これからの学校づくりについての考え方〔統合校のビジョン〕の説明を受けて、若干の質疑・意見交換が行われました。ビジョンの話は今回始めてであり、今後も学校づくりについて話合っていくことになりました。

③次いで次回は、地域と学校の関係について、『学校の意義・役割』を話し合うことになりました。

一方、市教委からは、今年度の取組みとして、再編校の設計を行いたいので、近々に立地点の方針を示して、この検討会とは別に、4校区の代表のみなさんと専門家も交えて、統合校舎検討委員会（仮称）を設置したい旨話がでましたが、吐山からは、『再編校のビジョン論議は今日スタートしたばかりで、小中一貫教育を標榜されているのに、中学校関係者も入れずに校舎検討は解せない。事務局と市教委で改めて調整する事項にしている。まだ意見する段階でない。』と事務局見解があり、全体会議は終了しました。

その後、保護者分科会が行われ、未就学児を含む保護者のみなさんの関心ごとについて質問意見をお聞きする機会として開催されましたが、時間が短く十分な質疑に至らず、今後も保護者分科会を開催して、勉強もしながら、取り組んでいくことになりました。なお、未就学児保護者から3名の検討協議会委員を選任頂きました。次回の開催日等は、事務局から関係者に通知されます。

## 前回質問等に対する説明 市教委（教育政策課）

- ・学校規模・学級編成の国際的な比較  
⇒日本の小学校の児童数322人はアメリカに次いで多い。（ユネスコ文化統計年鑑1999）  
日本の1クラス児童数はOECD平均よりも多い。（文科省：OECD2013年）  
日本の教育は学習～生活指導まで幅が広く一概に比較できない。
- ・都祁における児童数減少傾向実態と今後の予測  
⇒今後、都祁全体でも1学年1クラス(40人)に満たない時がやってくる。[下面グラフ参照]
- ・国、市の学校規模の基準・標準  
⇒公立小学校の適正規模は12～18クラス、都祁地域4小学校は再編しても小規模校になるが、過小規模は解消される。
- ・統合によるメリット・デメリット  
⇒文科省中教審(H20.12.2)小中学校の運営の在り方等作業部会で示された資料[出席者に配布]
- \*小規模化・大規模化のメリット・デメリットで都祁・吐山に当てはまるものではない。[参考にして考えて頂く材料提供]
- ・これまでの奈良市における統合再編校の様子  
⇒平成23年の興東のアンケート結果の紹介  
興東小及び田原小（平成16年統合、17年より田原小中一貫校）の統合後の様子
- ・通学手段⇒2kmを超える場合通学バス。詳細は協議。
- ・跡地利用⇒庁内連携を取りながら、地域のみなさんと協議。

	H27	H28	H29	H30	H31	H32
吐山小	35	35	29	31	33	34
並松小	54	51	55	48	49	47
都祁小	112	98	100	93	91	86
六郷小	34	34	33	38	35	32
都祁地域全体	235	218	217	210	208	199

## 統合再編校ビジョン：市教委（教育政策課）説明

- \*子どもたちがむかえる社会  
＝先の見えない社会を生き抜く力・課題を見つけて生きる力＝
  - ・社会構造は変化し、職業も変容する
  - ・職業における機械と人間の役割分担も変る

\*\*\*裏面に続く\*\*\*

## \*国が考える教育

文科省の教育再生実行会議で提言を行っている。本年5月第7次提言

『これからの時代に求められる資質・能力と、それを補う教育・教師の在り方について』では、アクティブラーニングによるグループ学習を各教科に採り入れた学習やICTへの適応力を高める学習例等も挙げている。

また、学習指導要領も10年に1度みなおされているが、今回は平成30年に示される。

## \*奈良市・都祁の小学校づくり＝新しい教育・そのための準備

- ・統合再編による学校規模適正化
- ・こども園幼保小連携、小中一貫教育＝子どもの成長段階に適応
- ・地域連携（放課後子ども教室・学校支援地域本部・CS）

## \*それを支える地域の力

- ・平成20年～地域ぐるみで子どもを守り育てるしくみづくり
- ・コミュニティルーム等地域が集まれる場づくり、工夫

## 委員からの質問・意見等

・委員/保護者 ⇒市教委

- ・吐山は25～26年前、複式学級回避のために住宅誘致もおこなった。県立野外活動センターもあり、教育環境に恵まれている。大勢のところでは学ばせたいという願いはみんなお持ちだろう。吐山がいいと思う。
- ・統合再編に小中一貫教育を標榜しているが、先程のビジョンでは分からない。中学が1学年1クラスが目に見えている中での小中一貫ではないのか。
- ・ICT整備の話があったが、予算化は。また、吐山小学校を活用すれば、費用は安くすむのではないのか。  
⇒ICTの整備と建設に係る設計費用とは別である。立地点としては、都祁地域が地理的に4地域の中心に位置し、スクールバスでの通学を考えた際に妥当と考えている。
- ・この都祁の地域の義務教育の在り方、指導要領の変化に伴い、先生・家庭・地域がどうしていかなければならないのか。どうしようとしているのか、ビジョン・ロードマップが必要と思う。論議が要る。

## 次回テーマ 『地域における学校の意義・役割』

- ・吐山は学校あつての吐山であり、吐山あつての吐山小学校地域における学校の意義、学校教育における吐山地域の役割を論議⇒温故知新

\*\*\*保護者分科会も今後開催計画\*\*\*

- ・保護者の勉強、不安・疑問の解消、意見交換

## 奈良市教委今年度計画案

統合再編に伴う新校舎の設計を行う。  
そのため、立地点の方針を示す。  
設計に対する意見は、別に検討会を設けたい。

[検討協議会として、本件は未受理]

## 保護者分科会

未就学児の保護者にとっては、学校規模適正化云々は初めての話であり、事務局から今までの経過について極簡単に説明を行った後、委員選任、質疑・意見交換がなされたが、短時間であり、今後も分科会を開催し、話し合うこととなった。

- ・未就学児保護者委員選任：中森元啓氏、阿納田洋介氏、今村英之氏  
<質疑・意見交換 ・保護者 ⇒市教委 →事務局>
  - ・吐山は再編に賛成なのか反対なのか  
→吐山はまだ、これからの検討である。中期計画時は、再編検討時期尚早としたが、本年度から少子化対応できる教育環境づくりの視点で検討開始したばかりである。
  - ・他の地域は統合再編に賛成なのか。  
⇒前向きに協議をいただいている。
  - ・少人数複式は団体スポーツに困った経験がある。⇒少人数できめ細やかに指導受け、中学でも頑張っている。
  - ・複式のデメリットはあったとしても、吐山での教育の良さを実感している。
  - ・統合再編のよし悪しの話をしているが、設計予算も付けて進んでいるのではないのか。  
⇒4小学校の統合再編に向けて、計画を力づくで進めるのではなく、各地域に丁寧に説明をさせていただきたい。
  - ・市からの説明も不十分だし、保護者自身ももっと勉強していく必要がある。  
→市教委もしっかり対応願いたいし、勉強して頂く機会として、分科会も機能させたい。
- ◇ 次回の日程・テーマ等は事務局・市教委で調整する。

お問い合わせ先：吐山検討協議会 [中島、保仙] / 奈良市教育委員会事務局教育政策課 (Tel.34 - 5386)